

京都女子大学 京都府、京都市との連携事例

自治体の課題(ニーズ)



pixta.jp - 72190232



昨今加速する、データを分析・活用して最適解を導き出す動きに対応するために、前例や直感のみに頼らずデータを活用する方法の推進や、人材育成をすすめたい。



研究成果(シーズ)の還元



- 京都府「第11回京都ビッグデータ活用プラットフォーム全体会議」
- 京都市「データサイエンス・統計リテラシー研修」において、データサイエンス活用等について講演を行った。

■ この連携に携わった研究者



データサイエンス学部
栗原 考次 教授

(研究者の経歴)

URL : <http://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/Profiles/18/0001723/profile.html>

京都女子大学 静岡県裾野市との連携事例

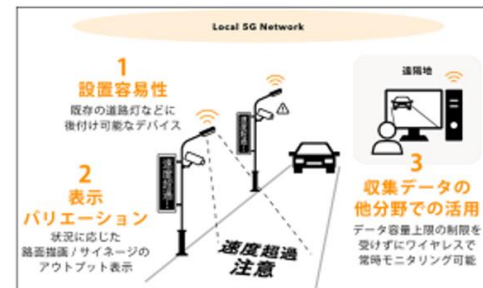
自治体の課題(ニーズ)



静岡県裾野市においては、交通安全に関する以下のような課題が存在。

- ① 交通安全対応に関わる人手不足
- ② 先進技術導入の対応
- ③ 高齢運転者、子供への安全対策の実施
- ④ 事故多発地点への重点整備

研究成果(シーズ)の還元



このような交通安全に関する課題を解決すべく、静岡県裾野市では民間企業及び京都女子大学と連携して、スマート道路灯を活用した実証事業を行うこととしている。

京都女子大学は、本実証事業における実施体制の一員として、スマート道路灯から検知した速度超過車両や歩行者侵入等に関するデータ活用に関する助言を行い、自治体による客観的根拠に基づいた政策意思決定が可能となるよう、研究成果を還元しているところである。

また、将来的には収集したデータの他分野での活用も視野に入れており、本取組を通じて自治体DXの推進に寄与していくこととしている。

この連携に携わった研究者



データサイエンス学部
中村 智洋 教授

(研究者の経歴)

URL: <http://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/Profiles/21/0002063/profile.html>

京都女子大学 京都府との連携事例

自治体の課題(ニーズ)



京都府では、人生100年時代を見据え、職業人生が長期化する中、「生涯学び・働き続ける社会」を実現する必要があると課題を認識。

誰もが生きがいを持って活躍できる(生涯現役)京都府を目指す。



研究成果(シーズ)の還元



DXに興味関心を持ち、データサイエンスのスキルを用いて日々の仕事の効率化や業務改善を目指したい方を対象に、京都府連携リカレント(DX)を令和4年度より実施。
データを分かりやすく整理する方法や過去のデータに基づき将来を予測する方法について講義を行った。

<出願者情報> 定員15名
令和4年度 60名(女性のみ)
令和5年度前期 49名(共学)
令和5年度後期 37名(共学)

この連携に携わった研究者



データサイエンス学部
林 邦好 准教授



データサイエンス学部
張 星源 教授

(研究者の経歴)

林 邦好 准教授

URL : <http://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/Profiles/18/0001743/profile.html>

張 星源 教授

URL : <http://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/Profiles/22/0002123/profile.html>